

生きいき憲法

日野原重明

東京の九条の会をつなぐ

九条の会
東京連絡会



「想定外」から「ナシヨナリズム」へ

仲築間卓蔵

「想定外」・なんと都合のいい言葉でしょうか。

3月11日の巨大地震。M7・9だった速報値は8・4に変更され、さらに8・9、そして9・0へと変更されました。計算式の違なのか、作爲的な変更なのか・・・。「想定外」を(国民に)思い込ませる第一弾だったのではないかと。そして福島第一原発。東京電力は、「M7・9に耐えられる」「それ以上は百年に一度しかあり得ない」といつていました。だからM9・0は「想定外」。次いで大津波・・・。東京電力は、ここでも「想定

外」でした。「想定外」といえば何事も「パス」と考えた輩がいたのでしょう。「想定外」という言葉は「責任の所在」をうやむやにさせる「目くらまし」の役割を果たしたといえます。この責任は、やがて厳しく問われることになるでしょう。

その「目くらまし」は、テレビCMにまで及んでいます。「思いやりを・・・」「ころづかいを・・・」というACC広告とともに、最近では、各地出身の有名タレントたちに、「アイラブユウ ベイビー 福島が好き」「僕らはふくしまが好き」と歌わせ、アイドル歌手や有名スポーツ選手を使って「みんなでやれば乗り越えられる」「日本は強い国」「日本の力を信じて」とコメントさせています。ここでも、「責任の所在」をうやむやにしたまま、「被災地救援」を国民任せにしていると感じるのは考えすぎでしょうか。戦争中の標語「欲しがりません勝つまでは」を思い出すのは私だけではないでしょう。気づかないうちに「ナシヨナリズム」が刷り込まれつつあるように思えてならないのです。これは、一瞬立ち止まって、今回の大震災報道を冷静に見つめ直す必要があります。

ついでに、地上デジタル問題に触れましょう。7月24日完全移行に向けての(準備を急がせる)文字が、大震災後、アナログテレビ画面からピタッと消えました。「それどころではない」という判断でしょう。当然です。この際、地デジ完全移行は、きっぱり延期すべきです。

(元日本テレビプロデューサー、日本ジャーナリスト会議・放送部会代表)

発行 九条の会東京連絡会 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8松村ビル401 TEL 03-3518-4866

FAX 03-3518-4867 ホームページ www.9jo-tokyo.jp メールアドレス mail@9jo-tokyo.jp

ニュースのタイトル「生きいき憲法」は日野原重明さん(聖路加国際病院理事長)の命名・揮毫によるものです。

巨大地震と福島原発事故

野口邦和（日本大学歯学部専任講師）

九条の会東京連絡会は、3月28日夜、けんせつプラザ東京で、第5回懇談会を開催しました。その席上、原子力問題に詳しい野口邦和さんに「巨大地震と福島原発事故」と題して話題提供していただきました。その内容（要約）を紹介します。



1、巨大地震の発生

今、容易ならざる事態が起きている。3月11日発生した東北地方太平洋沖地震は、14時46分に三陸沖の深さ約24kmで発生したマグニチュード9.0（13日に当初の8.8を9.0に修正）の太平洋プレートと北米プレート境界域における海溝型地震。気象庁によれば、M9.0は関東大震災のM7.9を上回る国内観測史上最大、アメリカ地質調査所によれば1900年以降世界でも4番目の規模の地震。巨大地震と巨大津波により死者1万1063人、安否不明者1万8606人の計2万9669人という大きな被害を出し、1都9県が災害救助法の適用を受

けた。原発は全国で54基が稼働中、年間電気量の30%を占めるが、津波によって被害を受けたのが福島第一原子力発電所。

2、原子力発電と火力発電の違い

火力発電は燃料の供給を止めれば安全に停止できるが、原発では制御棒を挿入して核分裂連鎖反応を止めた後も原子炉内に存在する膨大な量の放射性物質からの熱が発生し続ける。この熱の発生を止める方法はなく、冷却し続ける必要がある。火力発電では燃料は外部から常時供給されるが、原発では数年分の燃料が原子炉内に存在するから、何らかの原因で原子炉内の膨大な量の熱や放射性物質が環境に放出されると大災害となる。一度大災害が起これば、途中で核燃料を取り出すことはできない。

3、原発の安全性の基本

第一原発1～6号機は1970年代、第二原発は80年代に建設。原発の安全の基本は「止める」「冷やす」「閉じ込める」だが、今回は「冷やす」「閉じ込める」が失敗。原発はウランを燃料とし、核分裂連鎖反応を行っているから原子炉内には大量の放射性物質が存在する。従って、トラブルの発生による放射性物質の異常な放出に伴う周辺への影響を防止することが安全確保の基本となる。このため、

原発の設計においては多重防護の考え方を採用している。具体的には「異常の発生防止」、異常が発生しても「異常の拡大及び事故への発展の防止」、さらに事故の発生に到っても「原子炉を止める、冷やす、放射性物質を閉じ込める」という何重にもわたる安全設計を行っている。

4、津波が原発を襲う

第一・1～3号機および第二・1～4号機が地震を検知して自動停止した。外部電源喪失事故が起こって外部からの電力供給が絶たれたため、緊急炉心冷却装置が稼働しなかった。巨大地震にともなう巨大津波に襲われ非常用ディーゼル発電機もすべて止まった。この結果、原子炉の冷却機能が失われ、核燃料の温度上昇、冷却水の温度上昇と一部蒸発、核燃料棒の上部露出、核燃料の損傷、圧力容器内の気圧上昇、格納容器内の気圧上昇、水素爆発、燃料被覆管の破損、燃料被覆管の溶融、燃料棒の溶融。冷却水位の改善のため仮設ポンプで海水注入、その後真水に切り替えて注入する状態がずっと続いている。使用済み燃料貯蔵プールの水温上昇、3号機と4号機ではプールの水が蒸発して使用済み燃料が一部露出した。

5、従業員の被ばく

3号機の冷却装置の復旧作業中、タービン建屋地下1階でケーブル敷設をしていた男性作業員3人が被ばく。3人

は20～30代で東電の協力会社の作業員。内2人は水深15cmのところで、くるぶしまで浸かっていた。靴の上部から水が入ったらしい。水面での線量率は400mSv毎時に達しており、ベータ線火傷の可能性があるとみて福島県立医大病院、次いで放射線医学総合研究所で治療。被ばくした水たまりから通常の原子炉内冷却水より1万倍強い放射能を検出と東電が発表。東電によると、第一原発の事故で被ばく線量が100mSvを超えた作業員は3月25日現在で累計17人。

6、避難・屋内退避

双葉厚生病院からの避難者約60名を含む133名を測定した結果、13000cpm以上の23名の除染を実施した。政府は、第一原発の半径3km圏内の住民に避難指示、半径10km圏内の住民に退避指示、12日には半径10km圏内に避難指示。第二原発においても半径3km圏内の住民に避難指示、半径10km圏内に屋内退避指示、続いて半径10km圏内に避難指示。15日には第一原発の半径20～30km圏内の住民に屋内退避指示。しかし「半径」で避難地域を設定するのは、放射性物質の放出は風向きで異なるから問題だ。

7、海の汚染

26日、南放水口付近で排水の濃度限度の1850.5倍のヨウ素131が検出された。29日に同地点で採取した海水ではヨウ素131は排水濃度限度の2572.5倍、セシウム134は395.5倍の濃度。これまでに海水から検出された中では最も高い値。これは南



放水口付近から放射性物質を含んだミズが漏れ出ている可能性が大であるから、早急に放出源を見つけて塞がないと深刻な海の汚染を引き起こす可能性がある。

8、風評被害

流言飛語・デマ・風評被害をなくすためには、行政と事故を起こした当事者はできる限り事故情報を発表し、丁寧に説明する必要がある。あいまいさをなくすには研究者が前面に出るべきだが、今回の事故対応では政府や東電がそれらを実行したとは言い難い。

9、今後の事故対応

①外部電源を確保し、冷却用ポンプを稼働させ、原子炉や使用済み燃料を冷却する。②放射性物質が漏れ出ている箇所を修復し、放射性物質が漏れ出ないようにする。③放射性ヨウ素による汚染は3ヶ月でほぼ問題でなくなるので、その間は暫定規制値を超える食品と飲料水の出荷制限、摂取制限で対応する。④事故収束後、放射性ヨウ素の消滅を待って放射性セシウムの汚染状況を県内中心に調査し、その結果に基づき避難住民をど

こに戻すか否か、立ち退きをする地域はどこか、農業が一時的・長期的に制約を受ける地域はどこか等について判断・対応する。⑤被害・損害を受けた人びとの補償問題に対処する。

10、原発事故から何を学ぶか

①外部電源喪失事故に備えた非常用ディーゼル発電機が津波によってすべて止まってしまったのはなぜか。設置場所・設置方法に問題があったと考えざるを得ない。②使用済み燃料貯蔵プールの冷却系停止後の事態は十分予測できたはずである。迅速な対応が遅れたのはなぜか。③1～4号機ともほぼ同じ事故経過をたどったのはなぜか。④事故情報に関する東電の隠蔽、政府発表の情報が少ないのはなぜか。⑤70年代の古い原発の存続を問う。⑥大規模な放射能放出を伴う原発の大事故は常に予想外の原因から起こり、予想外の経過をたどって拡大し、予想外の結果をもたらす。事故の現実から謙虚に学ぶことが何よりも大事である。

(以上は要旨です。島田修一記)

北区長が平和市長会に参加表明 背景に北区議会・憲法9条を守る会の働きかけ 北区議会議員 八百川 孝

東京北区議会には、自民党、公明党、民主党、社会民主党、新社会党、無所属、そして日本共産党の25名（定数44名）が結集した北区議会・憲法9条を守る会があります。

昨年3月、結成5周年

昨年3月に結成5周年を記念して、太田昌秀元沖縄県知事を招いての講演会を企画しました。おりしも鳩山内閣のもとで、沖縄県辺野古への普天間基地移設問題が全国注視の中での後援会ともなり、区民からも好評をいただきました。この取り組みは、4月25日一大県民集会夜のNHK

テレビ放送でも紹介されました。

「九条を守る会」は、その県民集会直前の沖縄米軍基地視察を敢行しました。この企画には10名の議員が参加。当時の宜野湾市長、そして当選を果たしたばかりの名護市長に面談し、米軍基地撤去に向けた沖縄県民の悲願を強く感じてきました。参加した無所属区議は、沖縄戦の歴史や米軍基地下の沖縄の実相に「人生観が変わった」というほど衝撃を受けていました。

広島平和式典に参加

「九条を守る会」は、引き続

き8月6日広島市の平和祈念式典に参加しました。この企画は、広島、長崎市長からの「平和市長会議」への参加要請が北区にも届けられ、それに応えるべく議会の側からの行動として取り組まれました。

国連事務総長や核保有国の政府高官も参列したこの式典に、参加者一同も感動し、我が区の一日も早い市長会議への参加を促そうと帰路につきました。

自・公・共・社民が平和市長会への参加促す

北区議会第四回定例会では、それまでは共産党と社民党が「市長会議への参加」を質問で取り上げてきましたが、自民党と公明党が、その参加を促す質問をしました。区長は与党からの質問に答える形で「検討」を約束、今年1月に正式に参加を表明し、2月1日に参加確認がなされました。

私、八百川孝は、2月の代表質問で、市長会議への参加を歓迎しつつ、北区の平和宣言を非核平和都市宣言に高めるようにと要望しました。非核三原則を法制化し、日本が非核政府となることは、いまや、時代の要請であると考えます。

なお、沖縄視察の模様を私のホームページにてレポートしてあります。ご高覧を。



広島市の平和祈念式典に参列した北区議会・憲法9条を守る会の代表団

お願い

I 「生きいき憲法」は、東京都内の九条の会のネットワークとしての性格をもつ九条の会東京連絡会のニュースとして大事な役割を果たしています。各地や分野の九条の会で20部30部とまとめて取り扱って、皆さんで読んでくださるようお願いします。（1部30円です）

II 九条の会東京連絡会の活動を維持していく財政収入の中心は、皆様から寄せられる年額賛同金です。

これまで、1000円、3000円、6000円、12000円とお願いしてまいりました。

ニュースなどの印刷・発送、会の運営等を順調におこなっていくため、年額賛同金を納入してくださる方を増やすとともに、できるだけ年額3000円以上に増額してくださいますようお願い申し上げます。

地域から



沖縄・米軍基地・憲法9条を考える「手づくりの学習教材」 「中央大学9条の会」の若者と「いま沖縄を考える」DVDづくり 土岐 新 「みなみ野憲法9条の会」(八王子)

1、好評な「いま沖縄を考える」DVD(みなさんの感想から…)

「子どもと教育9条の会・品川・東京連絡会「懇談会」・「南大沢憲法9条の会(八王子)」でもDVD上映会が行われ、たいへん好評でした。◆豊富な資料が凝縮されていて勉強になった。◆沖縄戦の映像には衝撃を受けた。◆ナレーションも分かりやすくて良かった。◆「シュゴンとウミガメ」の海を破壊するなんて許せない。◆これならイデオロギーに関係なく、右から左の人まで納得する筈だ。◆「映像と「さとうきび畑(森山良子)の歌がピッタリ重なり感動した。…等々
中央大学名誉教授の「中村方子先生」からは「沖縄の人たちがこのビデオを見たら、きっと励まされるでしょう。ぜひこれを沖縄に送ってください」とカンパもいただき、お聞きした宛先にDVDを郵送しました。

「中大9条の会」の市橋さん(3年)が、『学生と地域のコラボ』と題して報告を行った東京連絡会「懇談会」(2/28)では、彼女が持参した10枚のDVDがあっという間になくなってしまいました。

2、第1歩は「八王子・平和を愛する文化祭」でのスライドショー

昨年10月「八王子・平和を愛する文化祭」の中で、「市内9条の会」共同企画として沖縄問題「交流討論会」を計画。1ヶ月前の「ミニ学習会」



の場で、私たち「9条の会」で作った未完成の「スライドショー」を見たまなさんから、「これにナレーションを入れて上映して欲しい」との要望が出されました。

「いやー、それはちょっと…」と言った時、「私たちが会場でナレーションをします!」と「中大9条の会」の米倉さんが提案。この若者らしい「一言」が私たちの背中を力強く押し、米倉さん(4年)と青山君(1年)の新鮮な感性和積極的な協力を得て、取り組みが始まりました。(年配者は、南大沢の浜津さんと私)勿論、ぎりぎりのスケジュールには思わぬ「ハプニングも付き物。そうした綱渡りをしながら文化祭当日、ライブのナレーションで「いま沖縄を考える」スライドショー上映が実現しました。大好評でした。「非常に勉強になった」「私たちの会でも使いたいの、ぜひDVDにして欲しい」などの感想や、要望も出され

ました。

3、若者と一緒に、新たなDVD制作へ

文化祭での要望に応えようと、忙しい大学の授業や活動の中で米倉さんと青山君はスケジュールを調整し、再び私との共同作業が始まりました。ナレーションの補足や録音…、またTV用に「資料や「映像の編集を何度も繰り返し、やっとこの1月に完成しました。

「中大9条の会」の米倉さんと青山君の協力がなければ実現しませんでした。改めて「中央大学9条の会」のみなさんに感謝。(中大の平野先生には便宜を図っていただき、大変お世話になりました)またこの取り組みの中で、私たち自身も「沖縄の現実や歴史をあまりにも知らなかったことに気付かされ、たいへん勉強になりました。米倉さんは、この共同の取り組みを「とても楽しかったと語り、また青山君は「(DVD)作

品に、かわれたことをとてもうれしく思います」とメールをくれました。

4、DVDの内容紹介(再生29分)

DVDは「資料」と「動画」を組み合わせ、次の「7シーン」で構成しています。

①在日米軍の実情、②世界一危険な普天間基地、③沖縄の地上戦、④沖縄の米軍基地と

その歴史、⑤今また新たな基地計画、⑥米海兵隊の本当の姿とは、⑦21世紀と憲法9条。★そして「さとうきび畑(森山良子)」をエンディング挿入歌として使用。

5、ぜひ一人でも多くの人に見てほしい

このDVDは「販売品」ではありませんが、制作にかかった「経費の一部」と「9条の会運動」の協

力として、1枚「1000円」でのカンパ協力をお願いしています。

【DVD申込み先】

〒192-0916 八王子市みなみ野3-7-6 土岐 新

Eメール: minamino-9jo@mbr.nifty.com

(※上映会などで「ハイビジョン上映」のご希望がありましたらご連絡ください。)



放射能被爆と憲法九条で講演、街頭行動 ねりま九条の会



ねりま九条の会は地域に九条の会を作るために小規模の企画をもつことにし、3月19日被爆医師の肥田舜太郎さんを招き「原爆・被爆者と憲法九条」の講演会を開催しました。当初借りた区の施設が節電のため使えず、急きょ大泉教会をお借りして間に合わせましたが、100人を超す大盛況でした。福島原発の放射能漏れに対する不安から関心が強かったせいです。これには被爆者練馬の会、大泉生

協病院、大泉九条の会、大泉教会が実行委員会に加わり、地域の病院にもチラシを置かせてもらいました。肥田さんの語る原爆の模様と放射能の恐ろしさに皆さん固唾を呑んで聞き入りました。アメリカ、日本の両政府が国連に対して放射能被爆を隠し「原爆の生存者は皆健常だ」と報告していたことを国連に行っ

て初めて知り改めさせたこと、アメリカの被爆者も多くがぶらぶら病になっていくが、その研究論文を翻訳したこと、60億分の1ミリの放射能が身体に入っ

やしていく、細胞分裂の活発な胎児、乳児、子どもに深刻な影響をもたらす。原発の廃棄物の保管場所6箇所村の貯蔵施設は300年有効な鋼鉄製というが、そんなに持たず、それ以降はどうするのか、6箇所村は満タンでこのあとどうするのか何も決まっておらず、それでも原発をつくり続ける。原発をやめなければ子どもたちの未来が危ない、年寄りだけが残る、九条を守るには身体を張って闘う決意がもとめられると、痛風を押しての94歳の訴えに圧倒されました。会は肥田さん出演の映画「ヒバクシャ世界の終わりに」を4月29日大泉北地域集会議場で上映することを決めました。またドイツの25万人集會に刺激され、4月9日練馬駅前被災者救援子どもの未来と原発を考える集いを開催、原発反対のリレートーク、音楽、DVDを上映しながらカンパを訴えました。

第4回懇談会の記録 東京9条まつりの成功を草の根の会の発展 にどうつなげていくかで懇談(続Ⅱ)

九条の会東京連絡会は、2月28日(月)18時~20時半頃まで、：新宿区内のけんせつプラザ東京(東京土建本部)5階会議室で第4回懇談会を開催しました。

参加者は26人。その概要はつぎのとおりです。

1、都知事選挙候補者への公開質問状について

事務局から、前回の懇談会で提案した都知事選挙候補者への「公開質問状」について、その提案を取り下げたい旨の報告があった。取り下げの理由は、①現在の立候補状況を見ると、そういう意図がなくても、九条の会が特定候補を推しているかのように受け取られかねない、②東京連絡会は連絡ネットワークであるという性格に照らして適切であるか疑問である、③九条の会の運動の今後の発展のために必要な取り組みなのか疑問である、の3点である。まず、この報告について討論しました。

「そもそもやるべきでない」という話でなく、「今回はやらない」という提案であるなら了解する。将来の可能性を縛るのはよくない。

いや、こういう取り組みについてどう扱うかのルールをはっきりさせることが大切だと思う。九条の会が選挙に関わるのも個々の会がやるのは自由。だけど東京連絡会のようなものが名乗りを上げて取り組むのはおかしい。東京連絡会は個々の会のそうした活動をお互いに情報交流し、連絡とりあう役目にある。

公開質問状を誰の名前で出

すのかという問題でもある。個々の九条の会なら会員や事務局でよく話し合って合意が得られれば問題はない。でも東京連絡会の場合、全東京の九条の会が参加して話し合ったわけでもないのに、名前からあたかも東京全体の九条の会の合意を得ているかのような印象を与えてしまう。それはまずいと思う。

確かに、より幅広い人と九条の一点でつながるという趣旨から見れば、取り組むべきではないかも知れない。今日の提案に賛成です。

今、日本は(韓国と同じように)民主主義の否定に向かっているように感じる。公開質問状をやめるならそれでもいいが、何らかの方向性を積極的に打ち出すべき。攻勢的に打って出ないと危険だと思う。

東京連絡会では取り組めないというのならそれでもいいが、私の地域では取り組みます。私はそういう取り組みが必要だと思う。

それぞれの地域の会が取り組むのは問題ない。東京連絡会としてはそういう取り組みを積極的に紹介し、連携をつくる役割を果たしたいが、東京連絡会の名前で取り組むことはしない、というのが今回の提案です。それで了承して欲しい。

2、「まつり」を含む今後の取り組みについて

議論のたたき台として(事務局の総意ではないが)個人の意見を述べます。前回の懇談会では東京連絡会のつながりを強化する取り組みが必

要との声があった。それは大事だと思うが、漠然と方向性なく取り組んでも進まない。むしろ、次の「まつり」をいつやるのかを決めて、そこまでどんな取り組みをしてつながり強化するか、というプランを持って進めることが大事だと思う。「まつり」を定期的にやって、その中間期に九条の会のつながり・ネットワークが強化されていく、そういう活動のサイクル(形)を作ることがいま求められていることだと思う。

いや、「まつり」のようなものをいつ、どういう形でやるかは情勢によって変わるので、事前に決めてしまうべきではない。全国交流会だって地域ブロック交流会になってまた全国交流会に戻った。形は運動を進めながら決めていくしかない。

品川ではすでに九条の会がいくつもあり、開店休業の会もあるが、新たに作りたいという意欲もある。そして横の連携をつくろうという意欲が高まっている。そういう意欲が刺激され、促進されるような取り組みを東京連絡会で考えて欲しい。

八王子では毎年秋に「平和を愛する文化祭」という企画があるが、ここで八王子にあるすべての九条の会が集まって顔を合わせようと一昨年から取り組みはじめた。準備はなかなか大変だったけど、やってみてお互いの顔を見て元気になった。そういう企画を各地で取り組むといいと思う。

昨年の「まつり」も準備の過程であちこちの結びつきを作ったと思う。しかし、まつり当日は忙しくて交流できなかったし、その後もまだその結びつきを生かしきれていないと思う。これからその結

びつきを生かした取り組みをしたい。例えば、東京南部という括りで大田区と品川区などが交流を深めるのもいいと思う。

先日、渡辺治さんの講演会に参加してきました。そこで聞いた話では、全国的にも九条の会の広がりテンポは落ちてきている、開店休業の会もあるし、何をしたらいいのかかわからないという会も多い、とのこと。そういう現状に応じた取り組みが必要だと思う。

練馬でも6つの会から経験を聞きたいとの要望が出されて交流会をやりました。東京全体でも交流会を開いたらいいのではないかなと思う。また各地の地元と相談して、その地元中心の企画を考えたらいいのでは。いずれも行政区単位の交流ならそれぞれでやれるが、行政区を越えた範囲での交流会や企画は東京連絡会でしかコーディネートできない。

去年の「まつり」はつながりができてよかった。東京にはすごい力があると自信がついた。みんなで力を合わせれば良いものができる。臆せずにはやるべきだ。

「まつり」をやって何が残ったか、を考えてみた。「五憲の会」(五日市憲法の会)ができた。今後このつながりをどう活かしていくか、先日、関係者が集まって話し合った。そういう成果があるが、他方で小学校区単位で会を広げることには結びついていない。

中央区でもネットワークづくりを大事にしてきた。今日でも八王子や大田区・品川区の話を聞いて我が意を得たりの感がある。つながりをつくることで元気になる。

私は在日韓国人ですが、在日は日本がふるさとなのにや

どかり的な意識のままでいる。自分たち自身が日本を守らなければいけない、在日九条の会を作りたいと思った。どうしたらいいのか、日本人の知恵も借りたい。

以上のような討論を行ないましたが、方向性を定めることはできませんでした。

次回(3/28)には合意が得られるよう、事務局で改めて提案を練ることにしました。

第5回懇談会の記録 東京9条まつりの成功を草の根の会の発展にどうつなげていくかで懇談(続Ⅲ)



九条の会東京連絡会は、3月28日(月)18時~20時半頃まで、新宿区内のけんせつプラザ東京(東京土建本部)5階会議室で第5回懇談会を開催しました。

参加者は38人。その概要はつぎのとおりです。

今後の取り組みについて、事務局から次のような提案がありました。

「この間、2回の懇談会をもって話し合ってきました。いろいろな意見が出ました。それをまとめて次のような提案を考えてきました。

- 1、2013年秋に大規模なイベントを行う。
- 2、2012年6月に東京レベルの大交流会を行う。

そのための実行委員会を来月からスタートさせる。この大交流会に向けて、この間の話し合いで出された3つの課題、すなわち①全小学校区に九条の会をつくる、②東京

連絡会と地域の会のつながりを強める、③「まつり」の取り組みでできたつながりをさらに強める、の3つの課題に取り組んでいく。大交流会ではその成果を交流しあい、さらに2013年の大イベントへとつなげていくステップにする。

3、以上の取り組みを成功させるため

まずは今年の5月20日に大学学習会を開く。

今の情勢は表面上は改憲阻止したと言える状況だが、水面下ではさらに危険な動きがある状況である。今の情勢をよくつかみ、大きな構えで九条の会の運動を広げていく必要がある。

以上の提案を受けて、自由に討論しました。以下、主な意見を紹介します。(→印は発言への回答です)

提案したいことがある。九条の会はばらばらの会としてやってきたが、そろそろひとつの組織に統一したほうがいいのではないかな。情勢に追いついていけるのか。

→いや、九条の会は各自が自主的な市民運動として取り組まれてきた。そのよさ失うのは良くない。もどかしい部分があっても、その原点は失うべきではない。